

道後公園（湯築城跡） ライトアップ事業計画書

file creation date. 2026/8/10



セーラー広告・タカショーデジテック共同企業体

1

“ひかりの情景スポット”を点在させ、思わず写真を撮ってシェアしたくなる情景を創出

「日本の美しい光の言葉」を掛け合わせて、園内にある歴史的文化財や、豊かな植栽が彩る風景の魅力を高めたライトアップポイントを7箇所設置。写真映えスポットとして来訪の動機をつくり、さらに来訪者の情報発信をきっかけに、さらなる多くの人々の来訪動機へとつなげ、夜間の新たな観光スポットとして生まれ変わります。

2

照明演出で時代がうつろう景色に包まれる幻想的な体験

南側の復元エリアの時代性を意識し、夜ならではのシーンを展開。道後温泉に近い北口や、路面電車沿いの西口から復元エリアに誘導を図り、園内の散策を楽しめます。

特に南側エリアは演出性を高めるためにカラー照明を起用。

没入感を得られる空間へ変容させ、四季折々のシーンがより印象的に仕上がります。

3

人にやさしく、不安感のない快適な照明環境

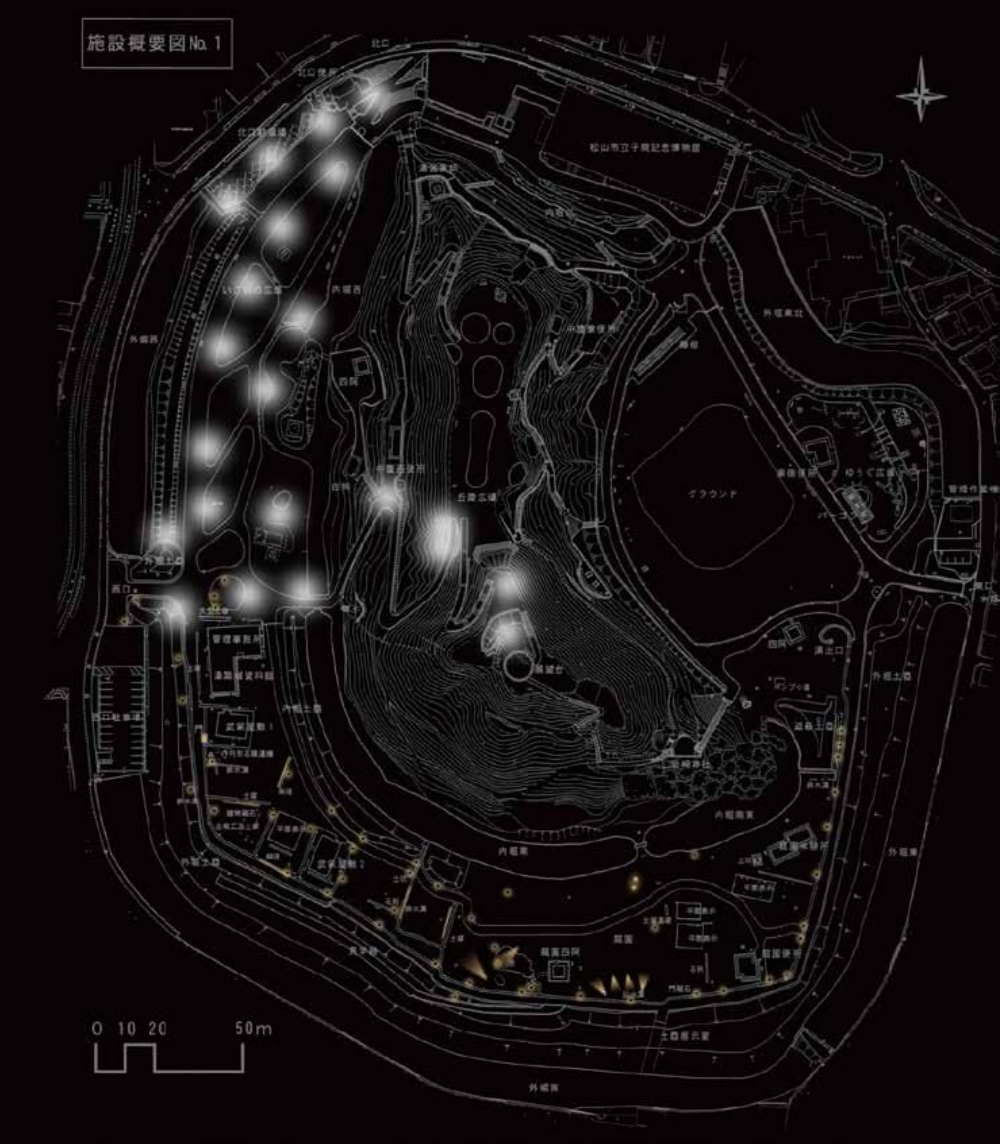
古えより使われてきた温かみのあるオレンジの光の色で統一を計り、情緒あふれるライトアップで居心地のいい快適な環境を整え、滞在時間を延ばします。既設の照明器具は基本的に使用することで改修による環境負荷が大幅に増えないように配慮。

また、現状暗く歩み進めることに不安感の残る箇所には照明器具を設置し、誘導性を高めるなど、安心して園内を楽しめるよう配慮しています。

4

道後温泉観光客の流入を図り、史跡に関心を持ってもらうきっかけとする。

道後地区の夜間の新たな観光スポットとして多くの注目を集めるため、道後温泉に近い北口や路面電車沿いの西口、道路から視認できる外堀を重点的に照明を配置する。



Before → PLAN



エリア説明

北側（近代～現代） 雰囲気：賑わい 情緒誘導：心地よい楽しさ、安心感

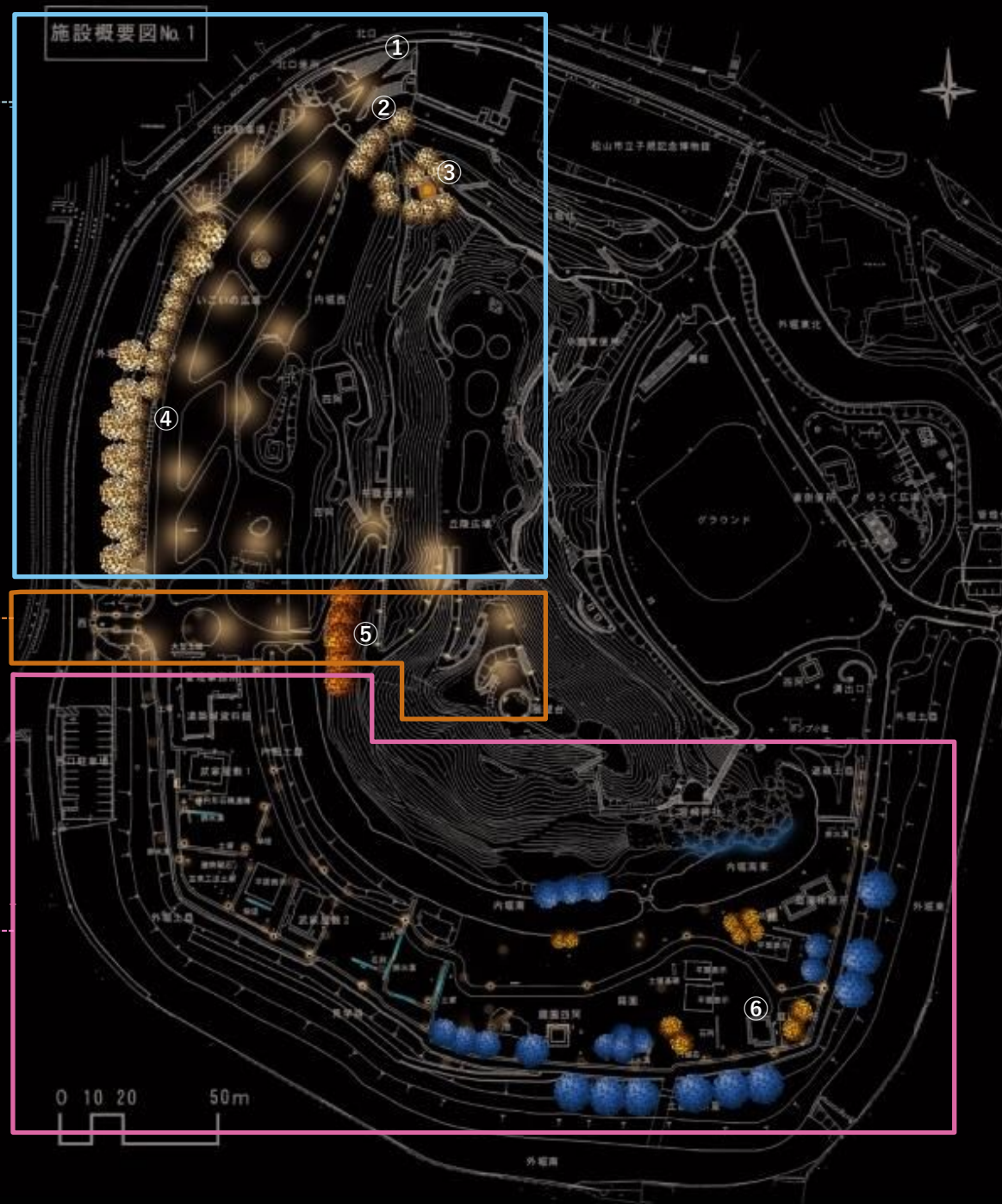
- ① 道後温泉・道後温泉駅から来る人々を迎える北口の視認性と光による賑わい感の創出を図るため、階段に季節ごとに柄や文字を変更して投影する予定。
- ② 北口から見える樹木を照らし、ライトアップの様子を示します。
湯釜薬師へと続く道の両端に行灯を設置して動線を明確にするとともに、木々に包まれた幻想的な空間へ誘う演出をします。
- ③ 史跡には直接の関連はないが、道後温泉との関係性を表す上で重要である日本最古の石造りの湯釜薬師という、道後の湯の起源を多くの人々に知ってもらうため、湯のゆらめきが再現されるような光の演出を採用。
- ④ 路面列車や車から見える、外堀の桜の木をライトアップし、公園に目を惹きつけます。

西側（古今の交錯） 雰囲気：変化、時の流れ 情緒誘導：懐かしさ、過去と今の繋がり

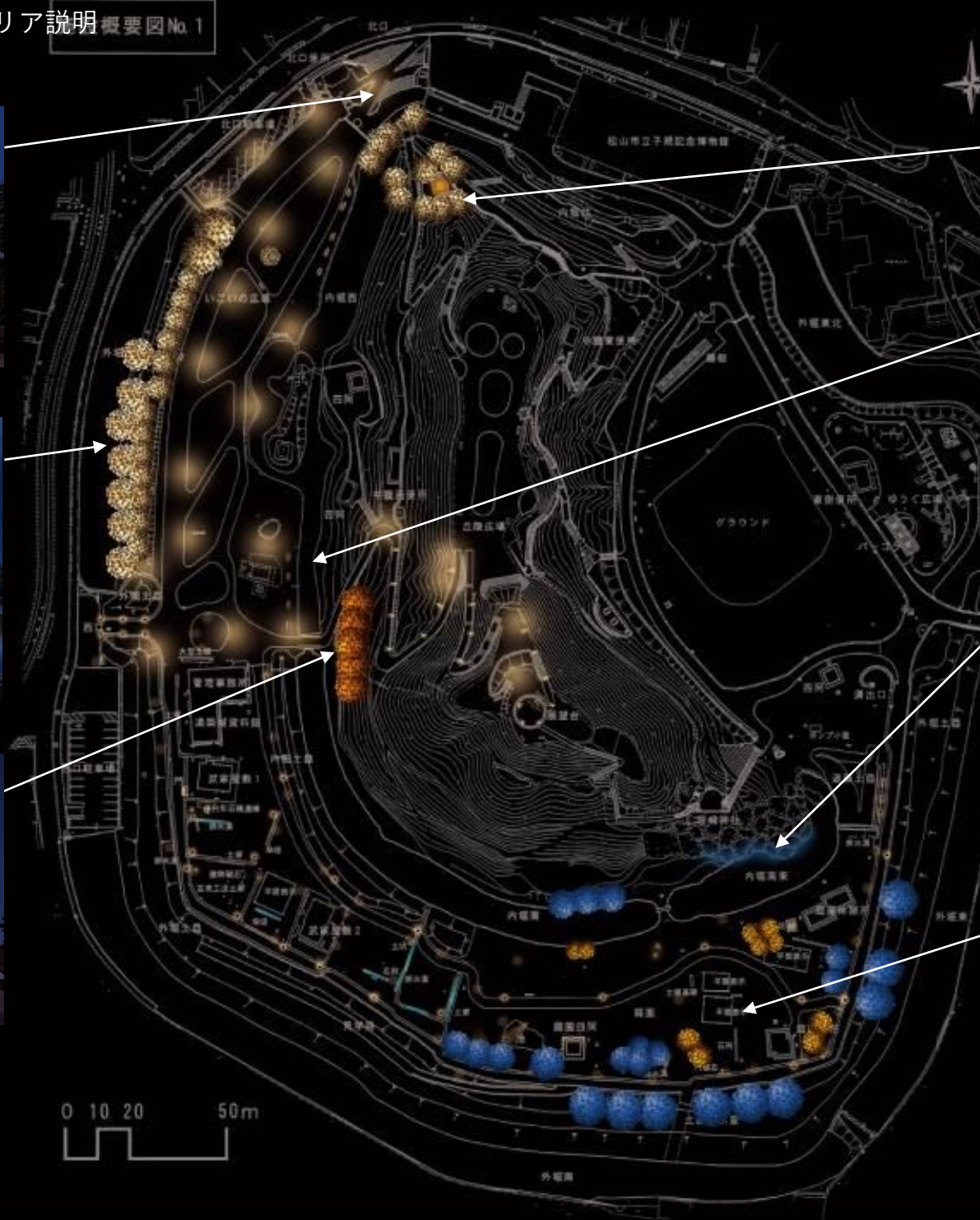
- ⑤ 園内中央は訪問者が世界観の転調を感じながら次のエリアへ足を運びたいくなるポイントの場として整理します。
「時代を超えても必ず毎日訪れる夕暮れの美しさ」をテーマとし、内堀奥の木々を夕映色で染めます。

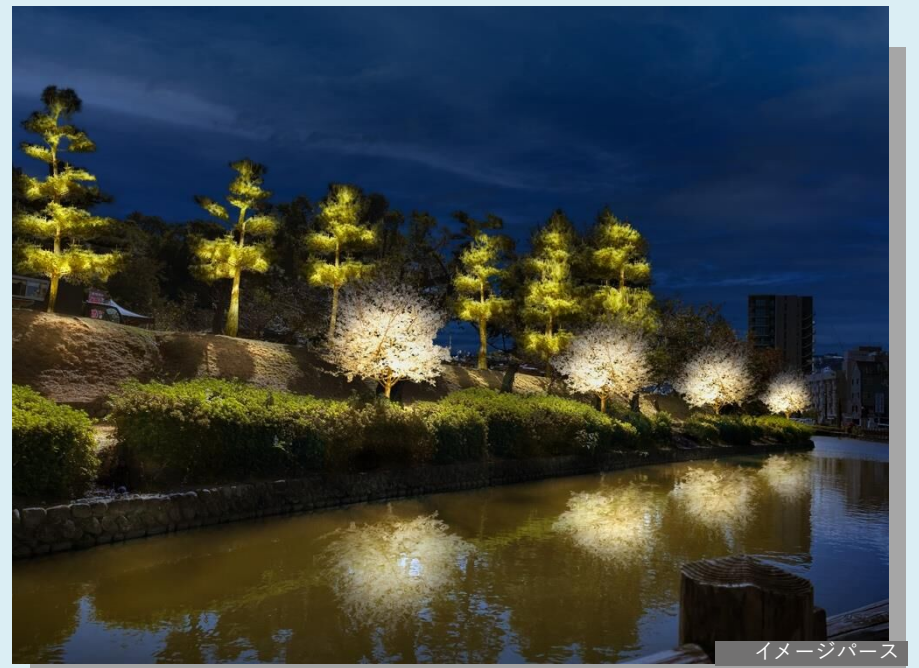
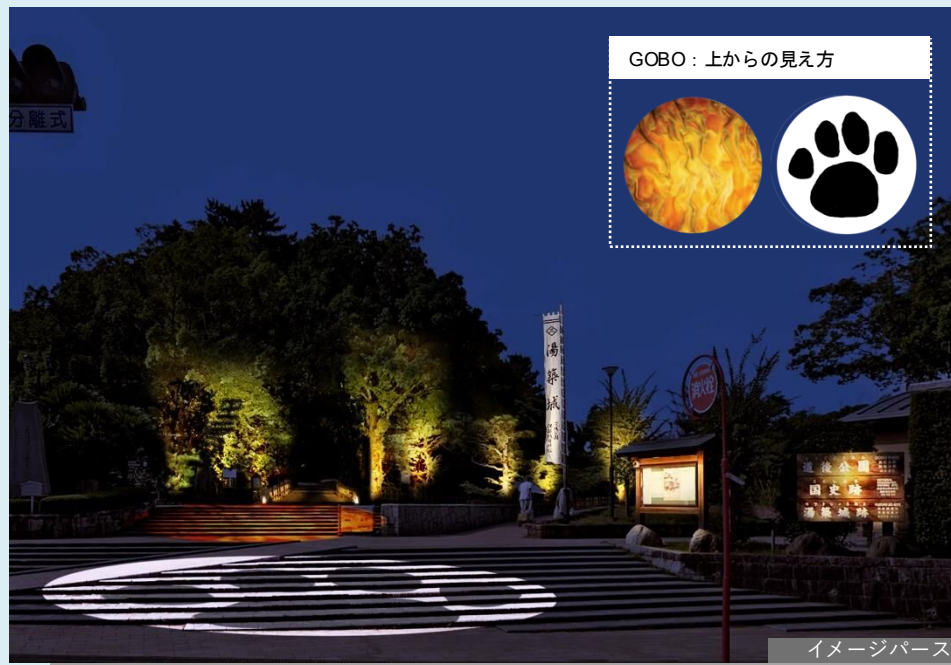
南側（戦国） 雰囲気：落ち着き、静かな力強さ 心情誘導：凛とした気高さ、芯の強さ

- ⑥ 自然光のみで暮らしていた時代背景を踏まえ、カラー照明で篝火のような燃えるオレンジ色や、月光のような青白い光を木々や土塁に照射。時代の雰囲気を劇的に演出します。
復元エリアの空間を活かし、補色関係にある青とオレンジの光を使うことで、視覚的に空間を強調することで没入感を高めます。



実際のライトアップイメージエリア説明 概要図 No.1





道後温泉から来る人々が最初に見る北口、路面列車や車から見える外堀部分は、人の目が一番触れる場所になるため、看板や旗、樹木をしっかりと照らし、明るさ感を出すことで公園の方に目を惹きつけることを意識してライトアップ。
また仮の模様を入れておりますが柄や文字が出せる照明器具で階段に投影し、公園のほうに目をむけさせる効果を狙っています。



湯釜薬師は、温泉に来た観光客の方が観に来られる、重要なスポット。「水あかり」をテーマに、湯がゆらめくような情景をイメージして今までにないようなライトアップを考案しました。

ゆらゆら揺れる光の照明で湯釜薬師を浮かびあげるように照らしています。周りの樹木も照らし、この場所の荘厳さを高めています。

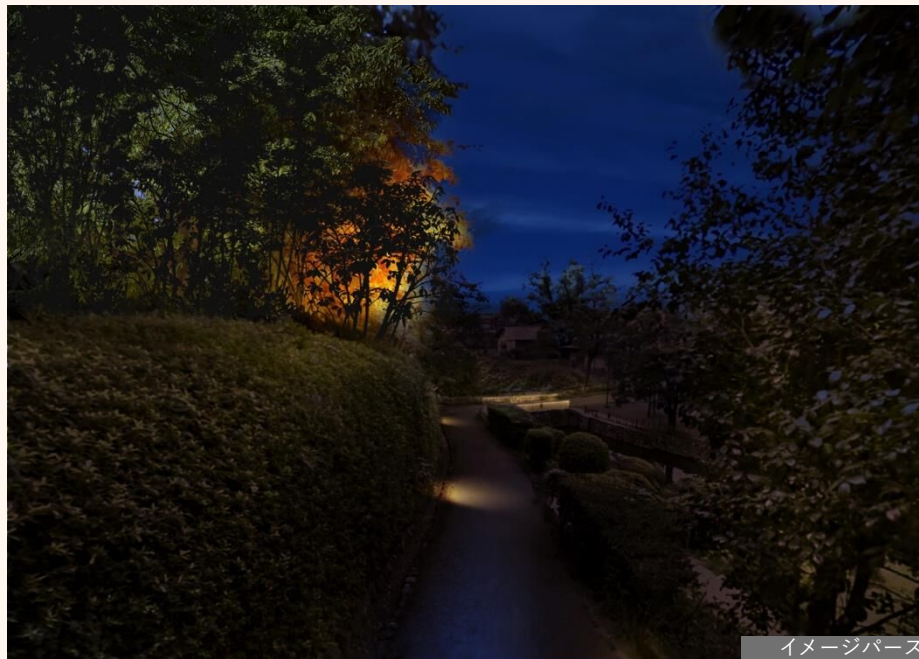


イメージバース

近代一現代エリアから戦国エリアや展望台へと向かうターニングポイントとなる地点という位置付けの西口は、雰囲気の変化を感じさせつつ、今と昔のつながりを思わせながら戦国エリアへと入っていくことをイメージして景色を作りました。

「時代を超えても必ず毎日訪れる夕暮れの美しさ」をテーマとし、内堀奥の木々を夕映色で染めます。

また西口も園内への入り口になるため、植栽をシルエットとして浮かび上がらせるようなインパクトのある演出をすることで外を歩く人々の興味を惹き、今まで通過点だった場所を写真スポットとしても仕立てています。



イメージバース

西口入ってまっすぐ進むと見えてくる内堀にかかる橋に間接照明を入れ、さらに続くスロープにも光を入れることで誘導性を高め、また展望台への道を安全に照らします。

展望台



イメージ事例



昼間イメージ

現状、小径のコーナーに街路灯のみで暗さと不安感が強く残るため、足元を照らす誘導灯を約10mスパンで設けます。前方に明るさが続くことで恐怖感を和らげ心理的にも歩きやすくなる効果(サバンナ効果)で展望台へ導きます。



実照実験時 写真



昼間イメージ

市街地の夜景を楽しめるよう、まぶしさを抑制する計画です。足元だけをやさしく照らす間接照明を設置し、夜景の美しさを妨げないよう配慮しています。



イメージパース

「史跡や文化財があり、復元された空間を活かして世界観をつくる」「この時代の人々の心情を光で表現する」ということを踏まえ、カラー照明を使って伝えることにチャレンジしています。

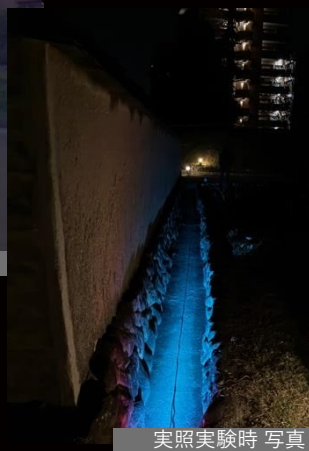
樹木や土塁をオレンジと青の光で染めることで時代の雰囲気を出し、城を守護する武士の芯の強さや気高さ、落ち着きを表現しています。

来園者の安全性と回遊性を高めるため、約20m間隔で行灯を設置します。中世において現在のような行灯は用いられていませんが、本計画では歩行を補助するとともに、空間全体の雰囲気を高める演出照明として位置付けています。また、行灯には「道後公園」などのロゴを表示することで、歴史的な再現物ではなく現代の案内・演出設備であることを明確にします。

【水路】



配光 イメージ



実照実験時 写真

地形を利用してつくられた中世のお城の特徴である、張り巡らされた水路に要所ごとで光を入れます。

水の流れを思わせる青色の光が、当時の知恵が息づく構造を浮かび上がらせます。

現存する遺構そのものを活かした、この場所でしか体験できないライトアップです。

【石舞台（岩山）】



イメージパース

庭園から望む東の内堀にそびえる岩山を、カラー照明によってライトアップする演出です。

この景観を活かしたライトアップにより、岩山の雄大さとともに、時代の重みや荘厳な雰囲気を実際立たせます。

【武家屋敷】



復元された武家屋敷をゆらゆらと揺れる光の照明でライトアップすることで、建物の存在感を高め、印象より際立たせます。

また壁面を照らすことで全体に明るさ感が生まれ、来訪者が進みやすい歩行環境を整えられます。

【土塀】



土塀にも要所ごとにポイントで行灯を設置。

蝋燭の火のような揺らぎのある光で土塀を照らすことで、北口・西口エリアを含めた公園全体の景観に統一感を持たせます。

メインの通りに置く行灯と同じくこちらの行灯も、史実を尊重したうえで演出照明としての位置づけです。

こちらも「道後公園」のロゴを入れた特注行灯とすることで来訪者が公園や、歴史的背景に関心を持つきっかけとなることを目指します。